

水稻の6月下旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 6月20、25日

＜東北信地域の巡回調査ほ場：東信15ほ場、北信14ほ場、計29ほ場＞

1 葉いもち

- (1) 巡回調査ほ場では、発病はみられなかった。
- (2) ただし、6月25日に北信地域の巡回調査ほ場のほ場で初発確認された。

2 イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）

(1) 東信地域

- ア 成虫確認頭数は、平年並であった。
- イ 幼虫確認頭数は、平年と比べ多かった。
- ウ 卵塊確認数は、平年と比べ多かった。
- エ 平均被害度は、平年と比べやや多かった。

(2) 北信地域

- ア 成虫は、巡回調査ほ場ではみられなかった。
- イ 幼虫確認頭数は、平年と比べ少なかったが、発生地点率は平年と比べ多かった。
- ウ 卵塊確認数は、平年並であった。
- エ 平均被害度は、平年並であった。



写真1 イネドロオイムシの蛹（佐久穂町）

3 イネミズゾウムシ

(1) 東信地域

- ア 成虫確認頭数は、平年並であった。
- イ 平均被害度は、平年と比べやや高かった。

(2) 北信地域

- ア 成虫確認頭数は、平年と比べやや少なかった。
- イ 平均被害度は、平年と比べて低かった。

4 斑点米カメムシ類（畦畔雑草）

(1) 東信地域

ア 平均捕獲頭数は、平年と比べ多かった。

イ 発生地点率は、平年と比べ低かった。

ウ 発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、トゲシラホシカメムシの順であった。

(2) 北信地域

ア 平均捕獲頭数は、平年と比べ多かった。

イ 発生地点率は、平年と比べ高かった。

ウ 発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシの順であった。なお、アカスジカスミカメの発生が目立った（写真2）。



写真2 アカスジカスミカメ（飯山市）

5 その他（畦畔雑草）

(1) イナゴ

ア 平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ少なかった。

イ 発生地点率は、東信地域では平年並、北信地域では平年と比べやや低かった。

(2) クサキリ類・ササキリ類

ア 平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや少なかった。

イ 発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。

【中南信】調査日 6月23日、24日、25日、26日、27日、30日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信15ほ場、中信18ほ場、計33ほ場＞

1 葉いもち

巡回調査ほ場では、発病はみられなかった。

2 イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）

(1) 南信地域

巡回調査では、成虫、幼虫、卵塊、食害痕は確認されず、平年と比べ発生は少なかった。
なお、諏訪地域の定点2か所では、ほ場内で食害痕、うち1ほ場で幼虫及び蛹が確認された。

(2) 中信地域

巡回調査では、成虫、幼虫、卵塊は確認されず、食害痕は1ほ場でみられた。平年と比べ発生は少なかった。

3 斑点米カメムシ類（畦畔雑草）

(1) 平均捕獲頭数は、平年と比べ多かった。

(2) 発生地点率は、平年と比べ高かった。

(2) 発生種は、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシがみられ、特に出穂したイタリアンライグラスがある雑草地では捕獲数が多かった（写真3）。

なお、スズメノテッポウやホタルイ等、本田内雑草での多発事例が各地で見られた（写真4）。

4 その他（畦畔雑草）

(1) イナゴ

ア 平均捕獲頭数は、中信地域では平年よりやや少なく、南信地域では平年と比べ少なかった。

イ 発生地点率は、中信地域では平年より低く、南信地域では平年と比べやや低かった。

(2) クサキリ類・ササキリ類

ア 平均捕獲頭数は、中信地域及び南信地域ともに平年と比べ多かった。

イ 発生地点率は、中信地域及び南信地域ともに平年並であった。



写真3 スズメノカタビラとアカスジカスミカメ
(白馬村)



写真4 スズメノテッポウ(本田内)とアカス
ジカスミカメ (麻績村)